# 復興、そして、地域の力につなげていこう。

昨年9月、釜石鵜住居復興スタジアムで、ラグビーワールドカップ2019™日本大会が開催された際の様子。
試合前に、釜石市内の小学生が、巨大フラッグを掲げ、東日本大震災津波からの復興支援に対する感謝を伝えました。

## 復興の姿、岩手の魅力を発信する1年に

3月11日、東日本大震災津波から、9年が経ちます。犠牲になられた方々に、謹んで哀悼の誠を捧げます。また、被災された皆さまに心からお見舞いを申し上げます。そして、県内外から復興を支援してくださっている大勢の皆さまに、深く感謝いたします。

昨年4月にスタートした「いわて県民計画(2019～2028)」では、引き続き、復興を県の最重要課題とし、「誰一人として取り残さない」という理念の下、一人ひとりの復興を成し遂げられるよう全力で取り組みを進めています。

昨年は、沿岸部の災害公営住宅が全て完成したほか、復興道路等が令和2年度中に全線開通の見通しとなるなど、暮らしや交通ネットワークに関連する事業が大きく進みました。また、三陸防災復興プロジェクト2019やラグビーワールドカップ2019(TM)岩手・釜石の開催を成功させ、東日本大震災津波伝承館を開館し、復興の歩みを進める岩手の姿を国内外に発信することができました。

一方、平成28年台風第10号や昨年の台風第19号でも大きな被害を受けたことから、災害に強い県土づくりを進め、生活再建や産業復興支援にも取り組んでいきます。

今年は、「復興五輪」を掲げる「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会」が開催されます。3月22日と23日には、聖火リレーに先立ち「復興の火」が県内で展示されるほか、ホストタウンや事前キャンプなどを通して、世界の人々との交流・絆を深める取り組みが行われます。このような機会を通して、震災の事実と教訓や復興の姿と共に岩手の魅力を積極的に発信し、復興、そして、地域の力につなげていきましょう。

岩手県知事　達増　拓也

# 安全の確保

## 県内の三陸沿岸道路宮古以南が全線開通

昨年6月に行われた釜石北IC～大槌IC開通式の様子。
写真提供：南三陸国道事務所

昨年6月、三陸沿岸道路の釜石北 IC～大槌 IC(4.8km)が開通し、宮古市から宮城県気仙沼市まで（約106km）が自動車専用道路で結ばれました。また、3月1日には、久慈北IC～侍浜IC(7.4km)が開通。

復興道路は、それまで開通予定時期が公表されていなかった区間も合わせて、令和2年度中に全線開通する見通しとなりました。三陸沿岸道路の全線開通によって沿岸地域の移動時間が短縮し、救急医療機関へのアクセスや水産業をはじめとする地域産業のさらなる振興、三陸地域の周遊観光の活性化など、さまざまな効果が期待されます。

## 大槌川・小鎚川水門の整備

津波から市街地を守る、大槌川水門（左奥）と小鎚川水門（右奥）。

大槌町は、大槌湾へ流れ込む2つの川に挟まれるように市街地が形成されていますが、震災時はこの川からも津波が流れ込み、被害が拡大しました。そこで大槌川河口に新たな水門を、小鎚川河口には水門を再築し、それに伴う河川施設の復旧工事を進めており、この3月から津波防護機能が発現します。2つの川の間をつなぎ、市街地を守る壁となる津波防潮堤も、同時に機能します。

これらの水門には、新たに自動閉鎖システムを導入。津波が発生した時には、遠隔操作で安全かつ迅速・確実に水門を閉鎖します。今後、河川護岸工事などを進め、令和3年3月に全ての工事が完了する予定です。

## 宮古盛岡横断道路の整備

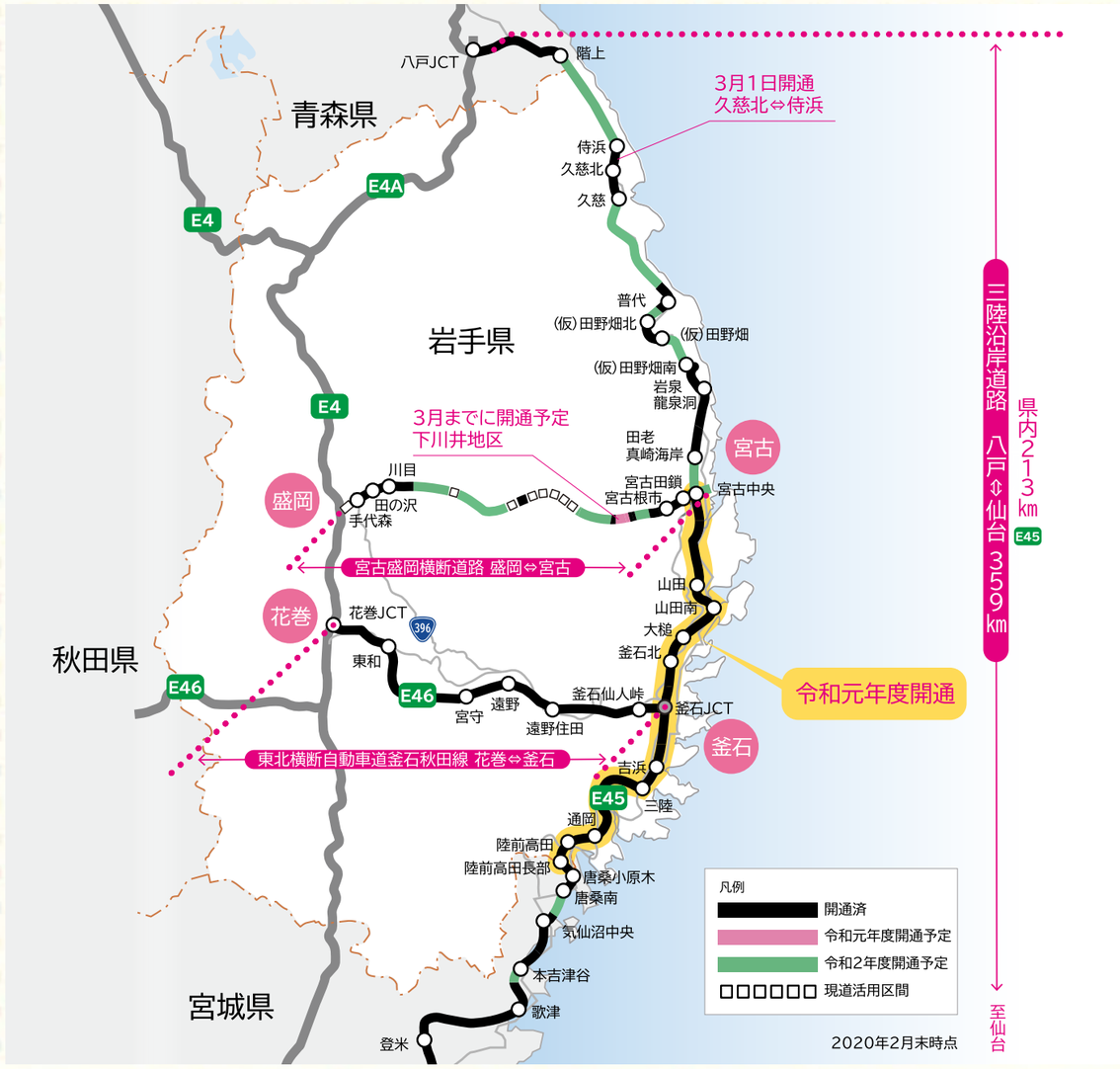
宮古盛岡横断道路は、昨年12月に田の沢IC～手代森IC(3.4km)が開通したほか、3月には下川井地区(2.0km)が開通予定です。

宮古盛岡横断道路は、三陸沿岸道路と同じく令和2年度中に全線開通する見通しで、盛岡市と宮古市の移動時間は、震災前と比べて約30分短縮され、約1時間15分になります。宮古地域から盛岡への安全で迅速な救急搬送や、内陸と沿岸を周遊できる広域観光の活性化などが期待されます。

## 復興支援道路の整備

県では、復興道路を補完し、内陸から沿岸各都市へアクセスする道路を「復興支援道路」に位置付け、整備を進めています。このうち、一般国道396号は、東日本大震災津波において、避難路・物資の輸送路としての役割を担い、災害時の迅速な避難・救急活動や緊急物資の輸送などを行うための路線として、岩手県地域防災計画において緊急輸送道路にも位置付けられています。県は、上宮守付近の急カーブ・急勾配の解消を図る工事を進め、昨年12月に完了しました。これにより、1年を通して安全で円滑に通行できるようになり、災害に強い道路ネットワークの構築につながります。





県内の復興道路等は無料で通行できます（東和～花巻間を除く）。

## 応援職員インタビュー

### 防災のまちづくりを全力で支援したい！

平成26年から工事を進めていた大槌川・小鎚川の水門工事と防潮堤工事。市街地を守る重要な工事を支えてきたのが、静岡県から派遣された山崎剛さん、平川竜さん、深澤孝一郎さんです。静岡県は、震災直後から毎年職員を派遣し、釜石市片岸海岸の防潮堤工事や甲子川の水門工事などを担当してきました。「大槌町内の工事では地盤改良の時に障害物撤去が必要になるなど苦労もあったが、町ににぎわいが戻るよう期待したい」と山崎さん。平川さんは「多くの工事に携わり、復興していく姿を見るのが嬉しかった」と話し、深澤さんは「岩手での経験を静岡でも生かしたい」と話します。応援職員の皆さんの思いが復興の大きな力になっています。

左から沿岸広域振興局土木部の深澤孝一郎さん、山崎剛さん、平川竜さん。

# なりわいの再生

## 「いわて水産アカデミー」開講

水産業の担い手を育成するため、昨年4月から、地域の漁業をリードする人材を養成する「いわて水産アカデミー」を開講。第1期となる令和元年度は7人が受講し、1年をかけて漁業の技術を習得するとともに、関係法令や6次産業化、情報通信技術を活用した漁業などを学びました。

釜石市で採卵のためのサケの親魚を捕獲する作業を学ぶ研修生たち。

## 被災農地が全面復旧

被災した沿岸部の農地は、昨年春に、復旧対象となる542ヘクタールの全てで整備が終わり、作付けが可能になりました。震災をきっかけに、被災していない農地もほ場整備を実施し、併せて、農事組合法人を設立した地域もあり、各地域で意欲的に農業経営が展開されています。

昨年5月に田植えが始まった陸前高田市高田沖地区。

## 「魚河岸テラス」オープン

「海、魚のまち釜石」を発信するため、釜石市が新たなにぎわいの拠点として整備を進めてきた「魚河岸テラス」が、昨年4月にオープンしました。1階には物販コーナーや郷土芸能の紹介スペース、2階には地元食材を提供する飲食店や展望テラスなどが設けられています。昨年9月には、国土交通省により「みなとオアシス」に登録され、地元住民も観光客も利用できる拠点としての活用が期待されます。

オープン日に多くの市民でにぎわう「魚河岸テラス」。

## ダイヤモンド・プリンセス初寄港

県は、観光や地域の振興につながるクルーズ船の寄港拡大を図るため、港湾所在市と連携して、国が主催するクルーズ船社幹部による県内視察の実施や世界最大のクルーズ船見本市への出展などを通じて、県内の港湾をPRしています。これにより、昨年4月、宮古港に、大型クルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス」が寄港しました。アメリカのクルーズ会社が運航するこの船は、全長290メートル、総トン数11万5,875トンで、10万トンを超えるクルーズ船が寄港するのは県内初となりました。

昨年4月に宮古港に寄港した「ダイヤモンド・プリンセス」。
今年の4月22日と10月26日にも、宮古港に寄港予定です。



# 暮らしの再建

## 校庭の応急仮設住宅撤去が完了

大槌町立吉里吉里学園中学部の校庭には、東日本大震災津波による応急仮設住宅80戸がありましたが、平成30年9月までに全住民が転出したことから、住宅の撤去とグラウンドの復旧工事を行い、昨年9月から校庭が使えるようになりました。

これにより、閉校・廃校した7校の344戸を除く、県内28校の校庭に建設した2,068戸の応急仮設住宅全ての撤去が完了し、児童生徒たちが校庭を使える環境に戻りました。

校庭で笑顔を見せる吉里吉里学園中学部の生徒たち。

## 沿岸部の災害公営住宅整備が完了

県と市町村が沿岸部に整備していた災害公営住宅5,550戸は、昨年11月に全て完成。県と市が内陸6市（盛岡市・花巻市・北上市・遠野市・一関市・奥州市）に建設中の283戸も、盛岡市南青山地区の住宅を除き、昨年11月に全て完成しました。盛岡市南青山地区の99戸は、令和2年度に完成予定です。

1月に完成した北上市の県営黒沢尻アパート。

## 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて

### 「復興の火」展示

「希望の道を、つなごう。」というコンセプトの下、3月26日から全国を縦断する聖火リレー。これに先立ち、岩手県・宮城県・福島県では、ギリシャで採火した聖火が「復興の火」として展示されます。県内では、三陸鉄道とSL銀河で聖火を運びます。

### 岩手県での展示日・場所

■3月22日(日)／三陸鉄道宮古駅前広場・陸中山田駅・大槌駅、JR釜石駅前広場・上有住駅・遠野駅、花巻市定住交流センター「花巻なはんプラザ」
■3月23日(月)／大船渡市防災観光交流センター「おおふなぽーと」
※各駅などでお披露目セレモニーや展示イベントを開催します。

### 復興「ありがとう」ホストタウン

東日本大震災津波からの復旧・復興を支援していただいた海外の国や地域と交流し、絆を深める「復興『ありがとう』ホストタウン」。県内では、沿岸部を中心に12市町村が取り組んでいます。

野田村では、昨年、台湾の著名人を招いて中学生と創作太鼓の体験をするなど、地域の魅力を伝えながら交流を広げています。東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会をきっかけに、復興支援で結ばれた絆をさらに深め、大会後も継続的に交流を続けていく予定です。

台湾のゲストと創作太鼓で交流する野田中学校の生徒たち。

# 令和元年台風第19号災害からの復旧・復興

## 生活再建

**○廃棄物・土砂の迅速な撤去を行っています。**

**○被災された方々の住宅再建・修理を支援しています。**

被災者生活再建支援法が適用された4市町（宮古市・久慈市・釜石市・山田町）で、全壊・大規模半壊の住宅被害を受けた世帯に対して、支援金（最大300万円）を支給しています。（令和元年12月末現在の支給決定件数：18件）

それ以外の市町村で全壊・大規模半壊の被害を受けた世帯にも同様の支援を行っているほか、半壊・床上浸水の被害を受けた世帯にも支援金を支給しています。（令和元年12月末現在の支給件数：371件）

**○三陸鉄道の復旧を進めています。**

鉄道施設の復旧工事や運休区間の代行バス運行経費への補助、全線運行再開（3月20日予定）に向けた誘客促進の強化を支援しています。

## 道路・河川・砂防などの公共土木施設の復旧

**○全面通行止めとしている県管理道路の復旧工事を進めています。**

**○被災した河川護岸の補修や堆積土砂の撤去などを行っています。**

**○家屋などの浸水被害があった河川については、洪水により河道に堆積した土砂の緊急的な撤去を進めるとともに、浸水範囲や洪水の痕跡など被害状況を調査しています。**

**○土砂災害が発生した所では、応急対策を行っています。**

## なりわいの再生

**○中小企業の施設・設備の復旧支援**

被災した中小企業の事業再建を支援するため、復旧に必要な経費の4分の3を市町村に補助しています。

**○農業施設・機械の復旧支援**

畜舎や園芸用ハウスなどの農業施設や機械の復旧などに必要な経費の一部を補助しています。

**○水産関係施設などの復旧支援**

水産関係共同利用施設の復旧などに必要な経費の一部を補助しています。

**○観光需要を回復するための支援**

国の補助金を活用して、県内での1泊以上の旅行・宿泊料金の割引を支援しています。

**被害状況**
（令和2年1月20日現在）

■人的被害
死　　者　3人

■住宅被害
全　　壊　46世帯
半　　壊　833世帯
一部損壊　1,113世帯
床上浸水　42世帯
床下浸水　912世帯

■公共土木施設（河川・道路など）の被害額
261億2,900万円

■農林水産関係の被害額
農業　19億7,467万円
林業　49億9,047万円
水産　26億9,864万円

■商工関係（企業など）の被害額
17億2,473万円

■観光関係の主な被害額
1億8,255万円

## 台風第19号で被災された学生の就学支援のお知らせ

**下記のいずれかに該当する方は、授業料や入学料などが免除されます。**

**●住居（学費を主に負担している方の住居を含む）が全壊または半壊した**

**●住居が流出した**

**●学費を主に負担している方が属する世帯の収入が著しく減少した**

### 県立高等学校

県立高等学校は、令和元年台風第19号で被災された方の授業料・入学検定料・入学料・寄宿舎料を免除します。詳しくは、県庁教育企画室または進学（在学）する県立高等学校にお問い合わせください。

県サイト内ページ番号検索 1006229

**[問]県庁教育企画室　019-629-6112**
**または進学（在学）する県立高等学校事務室**

### 県立看護師養成所

県立一関高等看護学院、宮古高等看護学院、二戸高等看護学院は、令和元年台風第19号で被災された方の授業料・入学選考料・入学料・寄宿舎料を免除します。詳しくは、各高等看護学院または県庁医療政策室にお問い合わせください。

**[問]一関高等看護学院0191-23-5116**
**宮古高等看護学院0193-62-5022**
**二戸高等看護学院0195-25-5141**
**県庁医療政策室　019-629-5487**

### 農業大学校

県立農業大学校は、令和元年台風第19号で被災された方の授業料・入学検定料・入学料を免除します。詳しくは、農業大学校にお問い合わせください。

**[問]県立農業大学校　0197-43-2211**

### 県立職業能力開発施設

県立高等技術専門校（千厩・宮古・二戸）、産業技術短期大学校（矢巾・水沢）は、令和元年台風第19号で被災された方の授業料・入校（学）検定料・入校（学）料・寄宿舎料を免除します。

詳しくは、各校（キャンパス）にお問い合わせください。

県サイト内ページ番号検索 1026059

**[問]千厩高等技術専門校0191-52-2125**
**宮古高等技術専門校0193-62-5606**
**二戸高等技術専門校0195-23-2227**
**産業技術短期大学校矢巾キャンパス**
**019-697-9088**
**産業技術短期大学校水沢キャンパス**
**0197-22-4422**

台風災害関連情報は
こちらから
ご覧になれます



# 特集　震災から9年　より良い復興へ　未来のための伝承・発信

## 「東日本大震災津波伝承館」オープン

県は、昨年9月、陸前高田市の「高田松原津波復興祈念公園」内に、「東日本大震災津波伝承館（愛称：いわてTSUNAMIメモリアル）」を開館しました。この施設は、「命を守り、海と大地と共に生きる」をテーマに、三陸の津波災害の歴史、東日本大震災津波や復興の取り組みに関わる写真や映像、被災した物などを展示し、東日本大震災津波の悲劇を繰り返さないため、震災の事実と教訓を後世に伝承するとともに、復興の姿を国内外に発信していきます。

高田松原津波復興祈念公園は、令和4年に、天皇皇后両陛下をお招きして開催する第73回全国植樹祭の会場となることが決まりました。

館内に展示されている被災した消防車

映像で震災の事実と教訓を伝えるガイダンスシアター

震災時の行動を伝えるパネルを見学する来館者

子どもたちに地震のメカニズムを説明する解説員

## 「三陸防災復興プロジェクト2019」開催

昨年の6月1日から8月7日の68日間にわたって、沿岸13市町村を舞台に「三陸防災復興プロジェクト2019」が開催されました。期間中は、防災復興シンポジウムのほか、三陸ならではの食やお祭り、三陸ジオパーク、三陸鉄道など、22の多彩な事業を通して復興の今と三陸の魅力を発信しました。これからも震災の教訓や復興状況を発信し、国内外の各地域との交流をさらに深めていきます。

県内の郷土芸能が集結した「いわて絆まつりin宮古2019」。

佐渡裕氏とスーパーキッズ・オーケストラによるコンサートなどを実施した「さんりく音楽祭2019」。

## 放射線影響対策のお知らせ

No.35

**野生山菜を採取する際の留意点**

県では、市町村と連携して野生山菜の放射性物質濃度検査を行っています。検査の結果、一般食品の基準値（100ベクレル/kg）を超えた場合、市町村の単位ごとに出荷制限などの措置が行われています。

野生山菜を採る際は、県ホームページを参考にしてください。

県サイト内ページ番号検索 1002103

**山菜の出荷制限などの状況**（令和2年2月10日現在）

| 品目名 | 対象地域 |
|---|---|
| コシアブラ | 盛岡市、花巻市、北上市、遠野市、一関市、釜石市、奥州市、住田町 |
| ゼンマイ | 一関市、奥州市、住田町 |
| ワラビ＊ | 一関市、陸前高田市、釜石市、奥州市、平泉町 |
| セリ＊ | 奥州市 |
| タケノコ | 一関市、陸前高田市（旧矢作村、旧横田村の区域に限る）、奥州市 |
| コゴミ＊ | 陸前高田市 |
| タラノメ＊ | 一関市 |
| ミズ＊ | 一関市 |
| サンショウ＊ | 奥州市 |

＊野生

**[問]**
**【放射性物質濃度検査】**
**県庁県民くらしの安全課**
**019-629-5322**
**【出荷制限など】**
**県庁林業振興課　019-629-5775**
**【全般】**
**県庁環境生活企画室**
**019-629-6815**